

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
柔道整復学9							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名		実務経験		
柔道整復学科・夜間部	2年	1期	原田 光就		○		
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数	
専門分野	臨床柔道整復学			座学	1	10	
科目概要							
柔道整復理論第6版の p.313～p325の範囲を学習する。転んで手をついて負傷した時に考えられる外傷の部位であり、柔道整復師として取り扱うことが多々ある部位でもあるので、受傷機序～鑑別診断～整復・固定・後療法～予後という一連の流れを想定することができるよう、それぞれの部分で説明をする。また、基本は暗記となるので、短期記憶から中期記憶、中期記憶から長期記憶となるよう、復習を充分に行う。							
目標							
一般目標(GIO) <small>本講義を学習することで達成されるべき目標</small>	柔道整復師として外傷の対応を正しく行えるようになるため、骨折・脱臼・軟部組織損傷の鑑別診断、処置、後療法、予後における対処で誤りが無いよう、必要な知識を習得すると共に、臨床において重要な技術と患者様を管理する態度を身に付ける						
	到達目標(SBO) <small>一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)</small> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外観・受傷機序から該当する外傷を予測できる 2. 問診で患者様から必要な情報を得られる 3. それぞれの外傷に対して適した処置(整復・固定・後療法)を行える 4. 再発防止等を含め患者様に自己管理法やリスクの説明を行える 5. 施術における一連のプログラムを組むことができる 						
履修に必要な予備知識や技能							
外傷への処置や指導管理は人それぞれ異なります。患者様にあった治療をしていくにあたり、患者様への対応、人を思う気持ちを大切にしてもらえたらと思います。							
教科書・参考書							
柔道整復学理論 第6版J(公社)全国柔道整復学校協会(南江堂)							
受講上の注意							
不明な点は、授業内でも授業外でも構わないので担当教員に確認してください。 授業で必要なものは、必ず授業前に準備をしておいてください。なおスマートフォン等は鞆にしまってください。							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)	90		10				100
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物		
第1回	上肢の解剖学・生理学概論(手根骨の配置、血管の走行を理解する)舟状骨骨折(舟状骨の発生機序の多い部位にかかる外力を理解し、症状を書けるようにする。)			p305~p306 p313~p315	筆記用具・教科書		
第2回	舟状骨骨折、三角骨骨折(舟状骨の発生機序の多い部位にかかる外力を理解し、難治な理由を書けるようにする。)			p315~316	筆記用具・教科書		
第3回	有鉤骨骨折、豆状骨骨折(有鉤骨骨折の発生理由を理解し体部骨折との違いを書けるようにする)			p316~p317	筆記用具・教科書		
第4回	その他の手根骨骨折、遠位橈尺関節脱臼(その他の手根骨骨折に働く力を書ける様にする。遠位橈尺関節脱臼の分類を言える様にする)			p318~p319	筆記用具・教科書		
第5回	橈骨手根関節脱臼、月状骨脱臼(遠位橈骨骨折との違いを理解し脱臼で起こる変形を言えるようにする。月状骨脱臼の分類また単独脱臼の発生の成り立ちを言えるようにする。)			p319~p321	筆記用具・教科書		
第6回	三角線維軟骨複合体損傷、ド・ケルバン病(TFCCの場所、かかる負担を理解し治療を言えるようにする。ド・ケルバン病の成り立ちを理解し検査ができるようにする)			p321~p322	筆記用具・教科書		
第7回	末梢神経障害、キーンベック病(末梢神経障害で起こる症状を理解し診断がつくようにする。キーンベック病の成り立ちを理解し診断ができるようにする)			p322~p324	筆記用具・教科書		
第8回	マーデリング変形、注意すべき疾患(手関節付近で起こる疼痛に様々な疾患があり発生機序の不明な疼痛にはどのような疾患があるかを理解し、診断時に留意できるよう理解する。)			p324~325	筆記用具・教科書		
第9回	総復習			p313~325	筆記用具・教科書 もしくは課題プリント		
第10回	定期試験				筆記用具		
実務経験と本講義との関連について							
柔道整復師として接骨院、救急指定医療機関に勤務、また開業時の実務経験をもとに症状、治療法、固定法、後療法について話をします。							
メールアドレス							
harada-t@nihonisen.ac.jp							